

糸島市学校規模適正化検討委員会 とりまとめ【イメージ】

1 学校規模の検討の背景

- 検討委員会の目的
- 検討委員会の検討経過

2 糸島市の学校規模の現状

- 小中学校の現状（推移及び推計）

3 学校規模を適正化する必要性

- 学校規模による課題
小規模校、大規模校のメリット・デメリット
- 学校規模に対する保護者、教職員、児童生徒の意識

4 適正な学校規模

- 糸島市における適正化学校規模

(例) 小学校 ○学級 ~ ○学級
中学校 ○学級 ~ ○学級

【第1段階の検討】

(学校規模の基本的考
え方)

5 学校規模適正化への具体的方策

- 学校規模適正化を要する小中学校
- 学校規模適正化の具体的方策

【第2段階の検討】

(学校規模適正化に向
けた具体的方策等)

6 学校規模適正化における配慮すべき課題

◆ これまでの検討経過

① 現状・将来推計

(1) 学校規模

分類	小学校(学級数)	現状	H34年度	備考
過少規模校	1～5	1	1	
小規模校	6～11	7	9	
適正規模校	12～18	5	4	
大規模校	19～30	3	2	
過大規模校	31～	—	—	

分類	中学校(学級数)	現状	H34年度	備考
過少規模校	1～2	—	—	分校を除く。
小規模校	3～11	3	2	
適正規模校	12～18	1	2	
大規模校	19～30	2	2	
過大規模校	31～	—	—	

(2) 児童・生徒数

小学校

地域	20年前(H8)	10年前(H18)	現状(H28)	6年後(H34)	増減
前原	4,637	4,616	4,205	3,740	△465
二丈	1,113	725	616	434	△182
志摩	1,497	1,042	885	683	△202
全体	7,247	6,383	5,706	4,857	△849

△864 △677 △849

中学校

地域	20年前(H8)	10年前(H18)	現状(H28)	12年後(H40)	増減
前原	2,492	2,055	2,087	1,811	△276
二丈	592	433	301	189	△112
志摩	809	584	387	330	△57
全体	3,893	3,072	2,775	2,330	△445

△821 △297 △445

② 学校規模による教育上の影響（抜すい）

観点	視点	小規模	標準	大規模
児童生徒	学習指導 生活指導	きめ細やかに出来る 集団競技が成立しない 部活数が減少 など	標準	画一的、一斉的になる ひとり一人の存在感が薄れる 問題行動を把握しづらく、きめ細やかな対応が行き届かない 部活の選択幅が増える
	人間関係	固定化される クラス替えが出来ないため、 社会性が育ちにくい		切磋琢磨があり、自立性が発達する クラス替えによる新たな人間関係ができる
教師	研修	指導計画、教材研究等が独自 判断になりがち		教員相互の連携、情報交換の機会増える。
	仕事分担	校務分掌の負担が増大する		校務分掌の負担が減少する 教員相互の連携が図れる。 チームを組んで対応ができる など。
	人間関係	交流、情報交換の場が減る		同左 増える
学校運営	学級編制	複式学級が発生する		施設利用の制限が発生する
	教員配置	教科担任を配置できなくなる（中）		各教科バランスよく配置できる
	指導体制	画一化される		習熟度別学習、TT等多様化する
	年齢構成	隔たりがあり、経営が停滞化する		バランスがよく、経営が活性化する

③ 市民アンケート結果

別紙